

# 平成 29 年度 事業報告（要約版）

## I 計画の推進と組織・経営基盤等の強化

本会が実施する地域福祉事業、介護保険事業、障害福祉事業等の諸事業について、執行機関である理事会を年 7 回開催するとともに、専門的事項を処理する 8 つの委員会において計 18 回の審議を重ねたうえで事業執行しました。そして、議決機関である評議員会を年 3 回（書面による議決を含む）、監査を年 2 回（中間監査を含む。）実施しました。また、具体的な業務にあたっては、担当理事が参画する担当職員会議において協議・報告等を行うとともに、適正に専門職（資格職）等を配置し、計 143 名の職員による事務事業、サービス提供等を実施しました。

経営基盤に直結する自主財源については、善意銀行寄附金や共同募金等については、より市民の理解を得られるよう周知・啓発に努め、団体・賛助会費（社協会費）においては、企業等への個別訪問を行い、財源確保に努めました。

一方、平成 25 年度からの 5 ヶ年計画である第 5 期高砂市地域福祉推進計画の進捗状況について理事会で審議するとともに、次期（第 6 期）計画策定に向けて地区懇談会や策定委員会を開催し、計画の策定を行いました。さらに、平成 29 年度からの 5 ヶ年計画である社会福祉充実計画を策定、推進しました。

また、労働安全衛生法の規定に基づき衛生委員会を開催し、職員が働きやすい環境づくりに努めました。人事評価制度の実施、職場内研修や外部研修等により、人材育成、職員の資質向上に努めるとともに、非正規職員に対する処遇改善を行いました。

## II 市民への情報提供及び啓発

広報活動については、「社協だより」を年 12 回発行するとともに、「ホームページ」を 43 回更新するなど、社協事業全般について、特に社協会費、善意銀行寄附金及び共同募金配分金を活用して実施した事業等について、市民への適切な情報提供に努めました。

また、社協の PR、市民の福祉意識の啓発等を図るため、企画実行委員会により、「第 27 回みんなの社協フェア」を開催しました。

## III ボランティア事業の展開と福祉教育の推進

ボランティア活動センターにコーディネーター 3 名を配置し、ボランティアに関する相談及び依頼に対し適切に助言・コーディネートするとともに、入門及び技術系の養成・研修、交流事業を実施するなど、ボランティアの育成に努めました。また、登録ボランティアグループ及び高砂市ボランティア活動センター登録団体（者）連絡会に対する活動助成金の交付や登録個人ボランティアの保険料半額助成などを引き続き実施し、既存ボランティア等に対する活動を支援しました。

また、次代を担う子どもたちが自分たちの地域や福祉に関心を持ち、より活発に活動を行えるよう福祉教育推進事業や、高校生ボランティア育成事業（TKV）を実施し、若い世代のボランティア活動の推進に努めました。

さらに、災害ボランティアセンター啓発事業においては、高砂市と共催で災害時支援ボラン

ティアの養成・研修を行うとともに、合同防災訓練に参画する等災害時に備えた体制整備に向けての取り組みを行いました。

#### IV 地域ネットワークづくりの推進（ふれあいのまちづくり事業の展開）

地域福祉の担い手である、920名の第10期福祉委員を中心に、福祉のまちづくり活動を推進し、また、福祉委員が円滑に活動を進められるよう研修会や講習会を開催し、その役割や活動に対する理解と必要性の周知に努めました。

町（校区）福祉推進委員会や小地域福祉部会に対して、部会長連絡会議、小地域福祉活動リーダー交流会を開催し、小地域福祉活動の一層の推進に努めるとともに、運営補助金、社協会費を財源とした活動助成金などを交付し、引き続き活動基盤の支援に努めました。また、小地域福祉部会においては、「ふれあいいきいきサロン」事業の助成額を拡充し、延べ66部会に対し、共同募金配分金等を活用した助成を行い、生きがいを持って暮らせる地域づくりの促進を図りました。

さらに、民生委員児童委員等が実施した要援護者実態調査を通じ、援護が必要な高齢者等が適切な支援を受けられるよう「地域見守り運動事業」を行うとともに、安否確認を兼ねた「ひとり暮らし高齢者食事サービス事業」や「おせち料理宅配サービス事業」を実施しました。また、介護者等の自主組織である当事者組織（家族会等）への支援や高砂市老人クラブ連合会・高砂市共同募金委員会事務局としての役割を担いました。

#### V 自立支援に向けたサービス提供と安心して暮らせる環境づくりの推進

介護保険事業の「訪問介護事業」においては、延べ2,406人に対し身体介護や生活援助等のサービス提供を行い、「ひとり親家庭等家事支援事業」では、延べ12人に対し、育児支援家庭訪問事業では、延べ34人に対し家事援助等を提供しました。「居宅介護支援事業」においては、介護支援専門員8人を配置し、延べ2,723人に対しケアプランを作成しました。また要介護認定調査を34件受託し実施しました。

障害福祉サービス事業の「居宅介護事業」では、延べ349人に対し身体介護や家事援助のサービス提供を行い、「同行援護事業」では、延べ249人に対し外出介助等のサービスを提供しました。地域生活支援事業である「移動支援事業」では、延べ37人の外出等の移動支援を行い、「手話通訳者及び要約筆記者派遣事業」では、延べ142人に対し384件の手話通訳者及び要約筆記者の派遣を行いました。「相談支援事業」では、相談支援専門員2人を配置し、延べ253人の障害福祉サービス利用等について支援しました。

これら事業の実施にあたっては、利用者の意思及び人格を尊重し、利用者本位のサービス提供を行い、市及び関係機関と連携し高齢者や障がい者が住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活ができるよう支援しました。また、介護サービス情報を公表し、関係法令を遵守し適正で健全な事業経営に努めました。

「生きがい対応型デイサービスセンター事業」においては、定例行事として「いきいき体操」や「うたの会」等9種類の行事を計174回実施しました。また、季節行事や各地域に出向き前型茶話会を行い、高齢者の自立生活の助長や閉じこもり・寝たきり予防を図り、生きがいを持って地域生活を送ることができるよう事業を進めました。

「生活福祉資金貸付事業」においては、相談員 2 名を配置し、生活困窮者支援を行う市の自立相談支援事業所と連携を図りながら、総合支援資金、緊急小口資金、臨時特例つなぎ資金をはじめ、福祉資金、教育支援資金に関する相談を受け、県社協の資金貸付につなげるなど、低所得世帯や障がい者世帯、高齢者世帯等の経済的自立、生活意欲の助長促進などの支援を行いました。

「福祉サービス利用援助事業(日常生活自立支援事業)」においては、専門員 1 名を配置し、利用者との契約や支援計画の作成を行い、関係機関との連携を密に図りながら援助の充実に努めました。また、直接援助活動を行う生活支援員を 4 名配置し、延べ 155 名の利用者に対し 356 回の援助を行い、判断能力に不安のある方が地域において自立した生活が送れるよう支援を行いました。

地域包括支援センター(包括的支援事業)においては、①総合相談支援事業では、協力センターも含め年間 1,060 件の相談に対応しました。②権利擁護事業では、年間 46 件の高齢者虐待通報に対応し、市が開催する各種虐待対応会議に参画しました。また、年間 27 件の成年後見制度の相談対応や権利擁護講演会を開催しました。③包括的・継続的ケアマネジメント支援事業では、個別ケア会議を随時開催し、自立支援と個別課題解決に向けた介護支援専門員の能力向上に努めました。市内の介護支援専門員対象の情報交換会、研修会を開催しました。施設間ネットワークの一環として認知症対応など研修会を開催しました。

認知症施策では、認知症相談センターで年間 242 件の相談対応、認知症地域支援推進員による認知症カフェへの支援、認知症初期集中支援チームによる訪問とチーム会議による検討を行いました。また、市が平成 30 年度から開始する高砂市高齢者等見守り・SOS ネットワーク事業の行方不明者の捜索・発見・保護・通報の模擬訓練の実施に協力しました。介護予防では、いきいき百歳体操の啓発、自主グループの立ち上げ支援及び継続支援や交流会を開催しました。

民生・児童委員等の協力を得て、要援護者実態調査による要援護者の把握及び支援等を行いました。

高砂市地域ケア推進会議、地域ケア実務者会議において地域包括ケアシステム構築に向けた検討に参画しました。

生活支援体制整備事業では、地域懇談会の開催、地域づくり講演会を行いました。

指定介護予防支援事業においては、介護保険の要支援認定者や基本チェックリスト該当者で、サービス利用を希望した高齢者に対し、介護予防サービス利用のためのプランを作成し、自立支援に向けた取り組みを行いました。

ファミリーサポートセンターにおいては、アドバイザー 2 名を配置し、会員募集のための入会説明会(年 4 回)や提供・両方会員養成講座を開催しました。また、フォローアップ講座(年 3 回)や交流会(年 5 回)、子育てセミナーなどの会員への交流・支援事業等を行うとともに、会員相互の援助活動の支援(1,111 件)を行い、安心して子育てができる環境づくりを推進しました。さらに、低所得世帯等が利用しやすいよう、善意銀行寄附金を活用して利用助成を実施し、子育て支援の拡充に努めました。